

赤十字新聞

The Red Cross Journal Japanese Red Cross Society publication

編集・発行／日本赤十字社 企画広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 TEL.03-3438-1311
一部20円 赤十字新聞の購読料は、社費に含まれています。

7 Jul 2010

Vol.842 <http://www.jrc.or.jp>



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society



献血は愛です

若者にトーク&ライブで呼びかけ

若者への献血推進を図るため、日本赤十字社が昨年10月から全国で展開してきた「LOVE in Action」プロジェクト。その集大成となる「LOVE in Action Meeting (LIVE)」が5月14日に大阪で、6月10日に東京で開催された。このプロジェクトに賛同するさまざまなアーティストが「献血は愛です」とアピールしました。

「LOVE in Action」は、ロゴマークを使った献血の促進、全国のJFN系FM放送局37局を結んだラジオでの献血推進番組の放送、全国各地の特色を活かしたイベントなど「LOVE in Action」の取り組みです。

100万人の若者の献血参加を目標に掲げ、人気ラジオDJの山本シュウさんをプロジェクトリーダーに、9月にわたって「わずか40分で助かるいのちがある」と呼びかけてきました。

東京の渋谷 C.C.Lennon ホールで6月10日に開催された「LOVE in Action Meeting」には、平成21年度のはたちの献血キャンペーンソングを歌った Meis さんをはじめ、砂川恵理歌さん、青山テルマさん、加藤ミリヤさん、キマグレン、さらにシークレットゲストのアンジェラ・アキさん、はるな愛さんら人気アーティストが出演。若い世代を中心とした2000人の観客に、トーク&ライブで「献血や命の大切さ」を訴えました。



山本シュウさん・加藤ミリヤさん



青山テルマさん

日本赤十字社第75回代議員会

平成21年度事業報告と収支決算を承認



代議員会であいさつする近衛社長

日本赤十字社の第75回代議員会が6月18日、東京都千代田区の新霞が関ビル「全社協灘尾ホール」で開催され、各県から146人の代議員が参加。平成21年度の事業報告と収支決算を審議し、全会一致で承認しました。

平成21年度、日赤はハイチ大地震や台風9号災害など国内外の災害で積極的な救護・復興支援活動を展開。血液事業では若年層の献血推進に力を入れ、前年度を上回る献血者確保を実現しました。

また、赤十字思想誕生150周年キャンペーンとして、各地で赤十字PRに取り組みました。

「時代ニーズと国際的視野を」

近衛社長が提起

あいさつした近衛忠輝社長は、こうした活動の成果を強調した上で、今後の課題として「国際的な視野を持ち、時代のニーズに慮ることが必要だ」と指摘。

その例として、血液事業縮小の意見が国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)内にあることを紹介し、「自らの立場を主張しなければ、国際的に取り残されてしまう」と訴えました。

また、赤十字国際委員会(ICRC)のケレンバーガー総裁が今年4月に表明した「核兵器使用は国際人道法違反の疑いが強い」との見解に近衛社長は歓迎の意を表明。「IFRCの2020年戦略の柱の一つが人道外交だが、こうした(核兵器廃絶)問題は人道外交として取り組むべき課題。唯一の被爆国の赤十字社として、こうした分野で人道外交を展開することも求められている」と述べました。



愛の血液助け合い運動月間

7月1日(木)～31日(土)

献血への理解と協力を国民に広げていく「愛の血液助け合い運動月間」が今年も7月1～31日の1カ月間、日本赤十字社、厚生労働省、各都道府県の主催で実施されます。

7月15日には島根県で日本赤十字社名誉副総裁・皇太子殿下のご臨席を賜り、第46回献血運動推進全国大会が開催されます。



多彩なアーティストが献血をアピール

東京・渋谷 C.C.Lemon ホール

INTERVIEW

献血で笑顔増やそう

青山テルマさん



あなたの献血によって、いろんな人が救われて、こんなに笑顔が増えたんだよって言われたら、献血をする若い子がきっと増えるはずですよ。

人は誰かに必要とされたいし、愛されたいと願う存在。だから人の力になれば、自分にもっと自信がつくし、献血で誰かを守れた、救えたと思えば、自分をもっと大切にできるのではないかと思います。

献血が若い子たちの可能性を広げるきっかけにもなったら、うれしいですね。

誰かの力になりたい

加藤ミリヤさん



私が小さい時から、母がたびたび献血していたので、献血は身近な存在です。自分が知らない誰かの力になれるって、本当に素晴らしいことだと思います。

若い時は特に、誰かのための自分でありたいとか、その一方では、自分の存在って何だろうかとか考え、もがいています。そんな時、献血によって自分が誰かの力になれる

と感じることは、本当に素晴らしいことです。それだけで自分が変わるような気がします。

困った時はお互い様

キマグレン

学生時代、運転免許センターで誘われて軽い気持ちで献血したのが、最初です。それ以来、何回か献血させていただいています。困った時はお互い様。いつ自分が(輸血で)助けられるかわかりません。できる時に献血しましょう(KUREIさん・左)。

ぼくも何回か献血しています。自分の大切な人を守るという気持ちで、献血してほしいと思います。献血で誰かのいのちを守ること、大切な人を守ることに同じです(IS EKIさん・右)。



いのちをつなぐ献血

アンジェラ・アキさん

高校生の時、白血病で亡くなった同級生がいたり、祖母が輸血でいのちを助けてもらったという経験があるので、献血の大切さは私の深いところにあります。

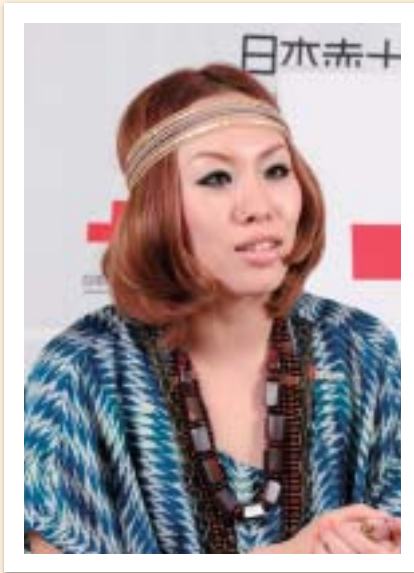
若い時には誰も、他人のことを考える余裕はありません。でも献血の大切さを訴えて、若い人の意識を高めていくことが大事です。

献血はいのちがつながっていくこと、自分が知らない人のいのちを救うこと。そんなに大きいことなんだと理解して、みんなで献血を。



献血はいのちをつなぐバトン

Metisさん



献血に対する若い人たちのイメージは「怖い」とか、「痛い」というものです。私も以前はそうでした。

昨年、長崎にある大学病院に行き、輸血でいのちを救われたという患者さんたちの話を聞く機会がありました。みんなが「(自分のために)献血してくれた人は誰かわからないけれど、その一人ひとりに手を合わせて感謝したい。『ありがとう』と伝えながら、生きていきたい」と、話されていました。

その話を聞いていたら、怖いとか、痛いとか、言ってもらえないと思いました。以前は、献血って誰かがやってくれるものだと思っていましたが、そうではなく、自分たち一人ひとりが行動を起こさないといけない。献血はいのちをつなぐ、大切なバトンだと考えています。

実は最近、私と同じ年の友人が亡くなりましたが、世の中には献血によって助かるいのちもあります。献血会場に足を運ぶ、その一歩の勇気で人のいのちが救えるかもしれません。誰かのいのちを救えるなら、みんなでヒーローになって救いましょう。私もがんばります。

Our world. Your move.

赤十字150年



個人の尊重と赤十字運動 (3)

元-FRC 財政委員 野々山 忠致

前回の話にあるように、「個人の尊重」はもとも絶対王政に対抗するための理念でした。しかし、それは今日においても重要な意義を持っています。何故なら、個人の尊厳が脅かされる事態は民主主義の下であっても現実にはよく起きるからです。

例えば、作家の村上春樹は、昨年の「エルサレム賞」

(イスラエル)「授賞式で要旨、次のように講演しています。「私たちは国籍や人種や宗教を超えて、みんな一人一人の間である。」

国家・組織の利害と個人

しかし、同時に私たちは「システム」と呼ばれる強固な壁に直面している。壁の裏には、い卵もある。システムは本来我々を護るべきはずのものだが、時に独り立ちして、我々を殺し、我々に人を殺させる。だからシステムを独り立ちさせてはならない。私が小説を書く理由は、

例えは、一昨年の四川大地震では自衛隊機による救援物資輸送の話が出ましたが、その時、これは日中関係の改善のためとか、海底資源の共同開発に関する交渉を促進するためだといった議論がありました。被災者の苦しみを国の政治に利用しようとする議論ですね。また、2004年、アブレイブやケアンタナモ収容所で捕虜の虐待が明るみに出ました。捕虜の虐待が起きているのは、赤十字の研究で、国や軍部の指導者が捕虜を人道的に扱うように明確な指示を出さないことが原因と明らかになっていきます。この虐待事件は米政府の指導層がテロ撲滅という国の政策に重点を置くあまり、個人の人權を軽視するに至ったことを示しています。

赤十字の「人道の原則」が「人間の苦痛を予防し軽減することに努める」とし、「公平の原則」が「個人の苦痛をその人のニーズのみに従って和らげるように努める」として「個人の尊重を強調しているのは、組織のなかにいると、人ばかり組織中心の物の考え方に染まって被災者や患者の苦痛を忘れることになり易いからです。赤十字は人の苦痛を和らげることを第一に考える運動である、そのことを忘れないようにしよう」と自ら戒めているのです。ところで、こうした「赤十字の人道思想」はキリスト教的なものであって、誰もが受け入れることのできる普遍性はないのではないかと言っています。次回はこの疑問に答えたいと思います。

は、個人の魂の尊厳がシステムに絡め取られ貶められることのないように、常にそこに光を当て、警鐘を鳴らすことにある」

システム、つまり国家や組織は、とかく組織としての利害を優先し、本来守られるべき個人はその犠牲になる。人道支援の分野でも、国や組織の利益が重視さ

係の改善のためとか、海底資源の共同開発に関する交渉を促進するためだといった議論がありました。被災者の苦しみを国の政治に利用しようとする議論ですね。また、2004年、アブレイブやケアンタナモ収容所で捕虜の虐待が明るみに出ました。捕虜の虐待が起きているのは、赤十字の研究で、国や軍部の指導者が捕虜を人道的に扱うように明確な指示を出さないことが原因と明らかになっていきます。この虐待事件は米政府の指導層がテロ撲滅という国の政策に重点を置くあまり、個人の人權を軽視するに至ったことを示しています。

平成21年度 収支決算の概要

日本赤十字社の会計は、一般会計と6つの特別会計から成り立っています。以下に平成21年度の一般会計、医療施設特別会計、血液事業特別会計、社会福祉施設特別会計の歳入歳出決算の概要を報告します。

決算内容の詳細については、日本赤十字社ホームページ (http://www.jrc.or.jp/adout/report/kessan/index.html)、もしくは本社・支部でご覧いただけます。

一般会計

社員の皆さまからの社費(会費)や寄付金等を財源に本社および支部で実施した国際活動、災害救護活動、救急法等の講習会、青少年赤十字、ボランティア活動等にかかる歳入歳出をとりまとめたものです。

科目	決算額(千円)	内訳
本社収入	18,073,457	
社資収入	7,895,870	本社が受ける法人社資、寄付金(NHK海外たすけあい、海外救援金を含む)及び支部からの送納金
委託金、補助金等	1,240,709	国からの委託金(サハリン在住韓国永住帰国等支援事業)、旧日赤救護看護婦等慰労給付金等の国庫補助金
繰入金	1,460,167	他会計等からの繰入金
前年度繰越金等	7,476,709	前年度繰越金、貸付金償還金収入、雑収入等
支部収入	24,560,222	
社資収入	16,055,510	個人および法人から提出いただいた社費及び寄付金 一般社資収入 14,204,450千円 個人社員数 10,646,283人 法人社資収入 1,851,060千円 法人社員数 151,889法人
委託金等収入	127,384	ホームヘルパー養成のための他団体からの委託金等
補助金及び交付金収入	493,461	都道府県・市区町村からの補助金収入、本社からの交付金等
繰入金収入	4,602,485	施設整備準備資金等からの繰入金
借入金収入	74,697	施設運営基盤強化のための総合資金からの借入金
前年度繰越金等	3,206,682	前年度繰越金、貸付金償還金収入、雑収入等
歳入合計	42,633,679	
本社費	13,326,529	
災害救護事業費	538,247	災害のための救護物資の備蓄や救護看護士の養成に要した経費
社会活動費	945,270	救急法等5つの講習会、奉仕団活動、青少年赤十字活動普及のための経費
国際活動費	4,646,101	国際救援、開発協力事業にかかる経費(中国大地震災害、及びスマトラ島沖地震・津波災害等の救援等事業費を含む)および国際赤十字への拠出金等
社業振興費	447,364	社員募集のための経費及び広報活動費
基盤整備交付金補助金支出	1,195,752	支部・病院・血液センター・社会福祉施設の基盤整備のための交付金等
その他	5,553,792	本社管理事務費、資産管理費、災害等資金からの借入金の償還等
支部費	22,862,657	
災害救護事業費	1,915,809	災害救護に要した経費、災害救護訓練費、救護物資等整備費、救護看護士の養成費等
社会活動費	2,963,866	離島僻地等への巡回診療、献血推進等血液事業、救急法等5つの講習会開催などに要した経費、赤十字奉仕団や青少年赤十字活動普及のための経費、ホームヘルパー養成事業費等
国際活動費	583,450	国際救援・開発協力のための経費や国際交流のための経費等
指定事業地方振興費	1,274,107	災害救護設備整備費、救急医療体制整備費等
地区区分交付金支出	2,242,581	地区・区分への事務費および事業費の交付金
社業振興費	1,944,518	社員募集および社員管理、広報活動費等
基盤整備交付金補助金支出	1,418,588	支部管下の病院、血液センター、社会福祉施設の基盤整備のための交付金支出
本社送納金	2,135,041	本社への社資送納金
資産取得及び資産管理費	4,008,561	建物整備工事費、資産の維持管理費等
その他	4,376,132	支部管理事務費、施設整備準備等のための積立金等
歳出合計	36,189,187	
歳入歳出差引額	6,444,491	※ハイチ大地震救援、チリ大地震救援、国際救援事業等のための翌年度への繰越金3,793,787千円を含む。

※上記決算額は、千円未満で切り捨てているため、合計額とは一致しません。

医療施設特別会計

本特別会計に属する本社の収益・費用および診療収入等を主財源とする赤十字病院等の運営に伴う収益・費用をとりまとめたものです。

科目	決算額(千円)	内訳
本社収益	539,253	施設繰入金等
病院収益	851,811,590	
医業収益	808,810,296	入院及び外来の診療等にかかる収益 入院患者延数 11,144,997人 外来患者延数 18,164,128人
医業外収益	30,727,863	受取利息、請負収益、運営費補助金等収益、施設設備補助金等収益等
医療社会事業収益	1,078,307	居宅介護支援事業等の収益、国際医療救援交付金等
付帯事業収益	9,361,902	看護専門学校、老人保健施設等の収益
特別利益	1,833,221	固定資産売却益等
収益的収入合計	851,853,890	
本社費用	556,855	赤十字病院全体の共通事業にかかる施設繰出金等
病院費用	853,035,193	
医業費用	810,648,361	材料費、給与費、委託費等
医業外費用	21,609,126	本部繰出金、支払利息、退職給付債務変更時差異等
医療奉仕費用	5,925,767	居宅介護支援事業等の給与費・経費等
付帯事業費用	10,386,060	看護専門学校、老人保健施設等の運営にかかる経費等
特別損失	3,989,699	固定資産除却損等
法人税等	476,176	
収益的支出合計	853,095,095	
収入支出差引額	△ 1,241,205	黒字施設数 40施設 黒字額 12,740,210千円 赤字施設数 50施設 赤字額 13,963,813千円

(注)「収益的収入合計」及び「収益的支出合計」において、本社・施設間の内部取引である病院建物建設資金、病院財政調整事業資金の貸付金に関する利息及び施設提出金は除いていること。

血液事業特別会計

本特別会計に属する本社の収益・費用および薬価に基づく血液供給収入等を主財源とする赤十字血液センターの運営に伴う収益・費用をとりまとめたものです。

科目	決算額(千円)	内訳
事業収入	156,492,474	輸血用血液製剤、分画製剤、原料血液の供給収入等
事業外収入	4,313,342	国庫補助金、他会計繰入金、受取利息等
関連事業収入	1,008,329	受託事業にかかる補助金収入等
特別収入	669,915	過年度損益修正にかかる収入等
収益的収入合計	162,484,060	
事業費用	144,108,511	献血者確保・採血・製造供給等にかかる人件費、材料費、経費
事業外費用	6,574,337	退職給付債務変更時差異、他会計繰出金、退職金等
関連事業費用	1,071,430	受託事業にかかる人件費、材料費、経費等
特別損失	810,923	血液センター旧社屋の解体費用等
収益的支出合計	152,565,202	
収入支出差引額	9,918,858	黒字施設数 40施設 黒字額 10,768,567千円 赤字施設数 10施設 赤字額 849,709千円

社会福祉施設特別会計

措置費収入、介護保険収入、自立支援費等収入、補助金等を主財源とする社会福祉施設の運営に伴う収入支出をとりまとめたものです。

科目	決算額(千円)	内訳
経常活動による収入	10,152,675	
乳児院 8施設	1,843,219	措置費収入、受託収入、都道府県・市町村からの補助金収入等
保育所 3施設	507,170	運営費収入、都道府県・市町村からの補助金収入等
児童養護施設 1施設	278,977	措置費収入、都道府県・市町村からの補助金収入等
肢体不自由児施設 3施設	1,870,138	自立支援費等収入、診療収入、措置費収入、受託収入等
重症心身障害児施設 1施設	1,256,127	自立支援費等収入、診療収入、受託収入等
老人福祉施設 8施設	3,592,348	介護保険収入等
障害者支援施設 1施設	251,991	自立支援費等収入、受託収入等
身体障害者社会参加支援施設 2施設	392,334	受託収入、都道府県・市町村からの補助金収入等
本部経理区分	160,366	経理区分間繰入金収入、一般会計繰入金収入等
施設整備等による収入	23,492	施設整備等補助金収入、施設整備等寄付金収入等
財務活動による収入	391,636	退職給与資金交付受入金等
前期末支払資金残高	3,016,232	
収入合計	13,584,036	
経常活動による支出	9,488,323	
乳児院	1,748,931	運営にかかる人件費、事業費、事務費等
保育所	503,436	運営にかかる人件費、事業費、事務費等
児童養護施設	271,901	運営にかかる人件費、事業費、事務費等
肢体不自由児施設	1,806,994	運営にかかる人件費、事業費、事務費等
重症心身障害児施設	1,155,492	運営にかかる人件費、事業費、事務費等
老人福祉施設	3,353,425	運営にかかる人件費、事業費、事務費等
障害者支援施設	243,277	運営にかかる人件費、事業費、事務費
身体障害者社会参加支援施設	374,766	運営にかかる人件費、事業費、事務費
本部経理区分	30,096	人件費等
施設整備等による支出	93,006	固定資産取得支出
財務活動による支出	759,116	借入金元金償還金、積立預金積立、退職給与資金積立金等
支出合計	10,340,446	
収入支出差引額	3,243,590	

常任理事会開催報告

平成22年5月28日、本社において平成22年度第2回の常任理事会が開催されました。審議結果は左記のとおりです。

付議事項

1 不動産の処分について (沖縄県支部の合同移転新築工事及び京都第一赤十字病院の増改築工事にかかる不動産の処分)

2 理事会に付議する事項について (京都第一赤十字病院の増改築工事にかかる資金の借入)

審議の結果、不動産の処分については原案のとおり議決され、理事会に付議する事項については、原案のとおり本年6月18日開催の理事会に付議することについて了承されました。

また、社員増強・社資募集の取り組みについて、日本赤十字社広尾地区再整備事業の進捗状況について、それぞれ報告しました。

平成22年6月17日、本社において平成22年度第3回の常任理事会が開催されました。審議結果は左記のとおりです。

第75回代議員会審議結果報告

6月18日、新霞が関ビル「全社協・灘尾ホール」において開催した第75回代議員会における審議結果は左記のとおりです。

平成22年7月1日
日本赤十字社

第1号議案 役員選出について

付議事項

1 規則の改正について (日本赤十字社育児休業規程等の一部改正)

2 理事会及び第75回代議員会に付議する事項について (役員選出、平成21年度事業報告及び収支決算の承認)

審議の結果、規則の改正については原案のとおり議決され、理事会及び第75回代議員会に付議する事項については、原案のとおり本年6月18日開催の理事会及び代議員会に付議することについて了承されました。

理事会開催報告

平成22年6月18日、全国社会福祉協議会会議室(新霞が関ビル)において平成22年度1回目の理事会が開催されました。審議結果は左記のとおりです。

付議事項

1 第75回代議員会に付議する事項について (役員選出、平成21年度事業報告及び収支決算の承認)

2 資金の借入について (京都第一赤十字病院の増改築工事にかかる資金の借入)

審議の結果、いずれも原案のとおり議決されました。また、常任理事会の理事の互選が行われ、池上清子、渡文明の両氏が選出されました。

副社長1名及び理事2名が次のとおり選出されました。副社長 米倉弘昌 理事 池上清子 渡文明 第2号議案 平成21年度事業報告及び収支決算の承認について 原案のとおり議決されました。

平成21年度事業報告のポイント

一人ひとりの善意が育てる赤十字の森

いのちを救うネットワークが世界と日本をつつみま

日本赤十字社がこの1年間に取り組んできた事業の報告が6月18日の第75回代議員会で承認されました。世界と日本で人間のいのちと健康、尊厳を守ってきたその活動の概要をまとめました。

世界のニーズに応じて

国際活動

ハイチ、チリへの緊急救援

平成22年1月のハイチ大地震で日本赤十字社は延べ66人のスタッフを派遣。現在も被災者への医療支援などを展開中です。2月のチリ大地震では、病院機能を補完する基礎保健ERU(緊急対応ユニット)を派遣しました。

アジア各地の復興を支援

一昨年のミャンマー・サイクロン災害や中国大地震などアジア各国を襲った災害の復興支援に数年間のプロジェクトで取り組んでいます。

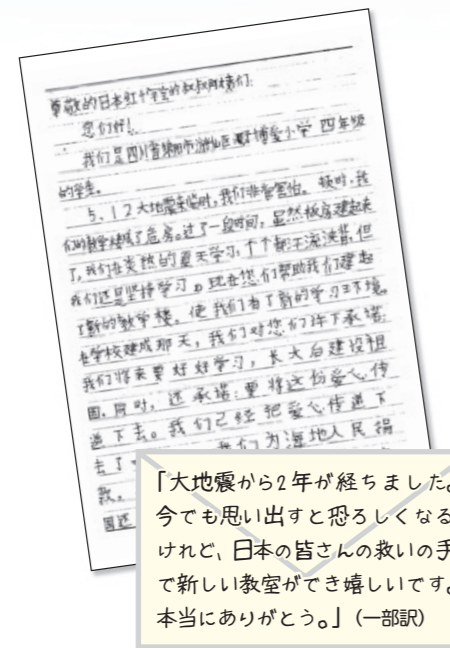
ウガンダ母子保健事業スタート

ケニアで地域保健強化事業を継続したほか、新たにウガンダで母子保健衛生事業をスタート。救急医療体制が未整備な東ティモールやパキスタンなどでは救急法の普及支援を行いました。

近衛社長がIFRC会長に

国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)は平成21年11月の総会で近衛忠輝社長を第15代会長に選出。世界に広がる国際赤十字運動への積極的な貢献が求められています。

平成20年5月12日発生した中国大地震の被災地では、日本赤十字社の支援により、被災者の生活が徐々に正常化してきています。新設された学校の様子など、日本赤十字社の活動の様子が掲載されています。



大規模災害に備えて対策

国内災害救護

台風9号災害

自然災害が相次いだ昨年は計26の日赤救護班が被災地に出動。台風9号災害では、兵庫県佐用町で延べ11日間の救護活動にあたりました。

東海地震対応計画

各都道府県支部との意見調整や本社災害救護訓練による検証結果を踏まえ、東海地震への対応計画をまとめました。

DMAT研修会スタート

昨年度から日赤救護活動実践研修会(通称:日赤DMAT研修会)をスタート。3回の研修会を通じて36病院の救護班と支部救護担当者174人が受講しました。



国内外で医療の担い手育成

医療・看護

地域の中核医療機関

全国の赤十字病院は、救急医療やへき地医療、周産期医療などの政策医療に参画。地域の医療計画や医療ニーズに基づき、中核医療機関として安全で質の高い医療を提供しています。

災害医療活動への貢献

国内外の災害医療救護活動に対応するため、各都道府県支部と連携してdERU(移動式仮設診療所)や基礎保健ERU(緊急対応ユニット)を整備。国際開発協力や災害救護活動に貢献できる職員の育成にも取り組んでいます。

看護師確保にむけて

日赤では昨年、「魅力ある職場づくりのための事例集」を冊子としてまとめ各施設に配布。その活用も含めた様々な取り組みの結果、離職率は9.1%から8.3%へ改善されました。看護師の確保率は93.4%に達しました。

看護教育支援事業

スマトラ島沖地震・津波災害復興支援事業の一環として平成18年度からインドネシア・バンドアチエで実施してきた看護学校教育支援事業は、看護学校4校に災害看護科目を新設。インドネシア語の災害看護教科書も作成しました。



アジア諸国との国際交流も

青少年赤十字

加盟校・メンバーの増加

青少年赤十字(JRC)加盟校数は昨年度末で1万2285校、メンバーは285万人、指導者数は15万4526人とそれぞれ前年度を上回りました。積極的な加盟校促進に取り組んできた成果です。

活性化への取り組み

活動内容の充実に向けて、メンバー・指導者の養成を図る研修会を各都道府県で実施しました。また全国で20校を活動モデル校として財政支援。各支部でも研究推進校を指定し、活動の活性化を図りました。

海外への教育支援

バングラデシュ、モンゴル、ネパールの3カ国で文具配布、衛生環境改善、JRC活動の促進など教育等支援事業を実施しました。



赤十字を支える要として

奉仕団・ボランティア



全国で研修会実施

災害救護や高齢者福祉、社員募集など幅広い活動で日本赤十字社を支える奉仕団。昨年度末現在、3039団が各地域で活動しています。その活動活性化へ向け、本社・各都道府県でボランティア養成研修会を開催しました。

HIV・エイズ予防啓発

青年赤十字奉仕団が取り組むHIV・エイズ予防啓発の活動推進のための「ピア・リーダー養成マニュアル」の作成を行いました。

多彩なキャンペーンを展開

血液事業

増えた献血者

平成21年度の献血者数は約530万人と前年度より約16万人増加。献血量も約7万リットル増えて、約207万リットルとなりました。

LOVE in Action

昨年10月スタートの「LOVE in Actionプロジェクト」はラジオ番組やイベントを通じて、多くの国民に献血参加を訴えました。「私たちの献血キャンペーン」は平成22年1月から2月末まで実施。プロゴルファー石川遼選手を広報キャラクターに採用し、若年層を中心に献血への理解と協力を呼びかけました。



「はたちの献血キャンペーン」が盛り上がり、多くの国民に献血参加を訴えました。

法人とのコラボ活動を追求

社員・社資募集

コンビニからも寄付

日赤の社員数は個人1064万人、法人15万2000法人(平成21年度末時点)。また、社資は213億5219万円となっています。いずれも減少傾向ですが、この状況に歯止めをかけるため、より簡単に社費・寄付金が支払える仕組みを導入。店内端末での寄付金受付開始で、コンビニエンスストアからの寄付金件数は、昨年度8倍余りに増えました。

進む企業とのタイアップ

法人社資は企業とのパートナーシップを重視。企業CSR(社会貢献活動)として商品販売数などに応じた寄付を寄せていただき、それをともに赤十字活動を行うといった取り組みが広がっています。



好評です! 健康生活支援講習

各種講習会

新講習に8万8000人

平成21年度からスタートした赤十字健康生活支援講習は、高齢期の健康増進知識や地域での高齢者支援・介護技術の普及が目的です。1年間で8万8000人が受講しました。

資格継続研修始まる

救急法救急員などの資格継続研修を平成21年度からスタートし全国で4404人が受講。資格継続研修を含めた平成21年度の講習受講者総数は約64万8000人となりました。

キッズデザイン賞受賞!

乳幼児の事故予防や手当の方法を学ぶ赤十字幼児安全法講習が昨年8月、NPO法人キッズデザイン協議会主催の第3回キッズデザイン賞を受賞しました。



地域住民に信頼される福祉拠点へ

社会福祉事業

病院や奉仕団と連携

自立した生活を送ることが困難な高齢者や子ども、障害者のために日本赤十字社が運営する社会福祉施設は全国28カ所。赤十字病院や奉仕団などと連携し、地域の福祉拠点としての役割を果たしています。

児童虐待へも対応

児童虐待を受けた子どもたちの小規模グループケアに4乳児院が取り組んでいます。

複合型福祉施設建設へ

東京・広尾では、特別養護老人ホームや介護老人保健施設などが1つの建物の中に入った複合型福祉施設の整備計画を進めています。新しい都市型モデルの福祉介護サービスの拠点となるものです。



思いをスズランにこめて ANAから 1万6000枚の押し花



全国45カ所の赤十字病院などの患者の皆さんに6月4日、ANA(全日本空輸株式会社)グループから「スズランの押し花」のしおりが贈られました。

今年で55回目を迎えるこの取り組みは、「しあわせ」「幸福の再来」の花言葉を持つスズランを贈ることで、入院されている



鈴木さん(右)に贈呈する国府田さん(中央)と合屋さん

患者さんの一日でも早い回復を祈るもの。患者さんは思いがけない贈り物に少し驚きながらも笑顔で受け取っていました。

日赤医療センターに入院する鈴木さんは、「歳をとると大きい文字しか見えなくなり、本も大きくなるので、この大きなしおりはとてもうれしい。勇気付けられます」と感謝の言葉。初めて病院を訪問したANAの国府田由美さんは、「患者さんの笑顔を目の当たりにすることができ、参加して本当によかったです」と感想を語りました。

押し花はANAスタッフが一枚一枚手作りしました



「命の子カラ」と書かれた赤いTシャツは坂本選手(右)自らがデザイン(左は藤井選手)

坂本選手を先頭に「赤十字応援デー」東京

東京ドームで5月16日に行われた巨人対ロッテ戦で「赤十字応援デー」のイベントが行われ、ドームを埋めたファンに向けて赤十字のPRが繰り広げられました。

読売巨人軍では2008年から「赤十字支援プロジェクト」をスタート。3年目となる今年、試合前に赤十字支援リーダーの坂本勇人選手と藤井秀悟選手が「赤十字コラボチャリティTシャツ」の販売会を実施しました。

ゲートでは、文京区赤十字奉仕団員をはじめ多くのボランティア

スポーツとコラボ



坂本選手のサインに喜ぶ高谷さん親子

アが坂本選手の写真入り「赤十字応援ステッカー」を来場者1万人に配布し、同時に呼びかけられた募金には9万5千円余りが寄せられました。

このほか、赤十字活動の紹介やAED(自動体外式除細動器)のデモンストレーションを東京ドーム広場のステージKingで実施。ラックアップ広場では献血も行われ、献血者の中から抽選で10人に坂本選手直筆サイン入りポスターがプレゼントされました。

た。当選した高谷泰廣さんと健人君親子は、「坂本選手が応援している赤十字を応援します。これからもっと献血しようと思います」と喜びを語りました。

なお、坂本選手は今季から東京ドームの巨人戦で「坂本勇人赤十字シート」を設置。闘病していることもや児童養護施設のことなどを毎試合4人ずつ招待する社会貢献活動を行っています。

プロ野球オールスターゲーム

熱いプレーを 赤十字も応援



7月23・24日に行われる「マツダオールスターゲーム2010」で災害救護活動の紹介や献血、オーラビジョンでの赤十字CM放映など多彩なイベントが行われます。

また試合終了後、(社)日本野球機構による出場選手や監督らのサイン入りユニフォームのチャリティオークションがインターネットで実施されます。売上金は全額、日本赤十字社及び口蹄疫被害を受けている宮崎県へ寄付される予定です。

第1戦 7月23日(金) 福岡Yahoo! Japanドーム
第2戦 7月24日(土) HARD OFF ECOスタジアム新潟

赤十字病院で 地域のみなさんともっとクロス!

健康まつりで 楽しく交流

長岡赤十字病院は6月12日、「地域のみなさまとのふれあい」をテーマに「健康まつり」を開催。多くの参加者でにぎわいました。

このまつりは、地域住民との交流を通じて、赤十字活動への理解と健康意識の向上を図ることが目的。県内すべての赤十字施設と赤十字ボランティアの協力により毎年開催

されています。

今年、ゲストにプロサッカーチームのアルビレックス新潟チアリーダーズを迎え、ステージでのパフォーマンスや健康体操、AED体験などを実施しました。

を感じてもらい、赤十字を知ってもらおうとの狙いで昨年からスタート。2回目となった今回は、職員250人がスタッフとして協力し、参加者は2500人を数えました。

病院内の見学では、普賢立ち入ることができない手術室やヘリポートなども公開。内視鏡操作や手術などを小・中学生が疑似体験できるコーナーでは、体験したことの母親から「娘が看護師になりたいと言っていました」とうれしい感想も出されました。



ちょっと緊張の注射体験

病院通じて 赤十字を身近に

姫路赤十字病院は5月15日、オープンホスピタル「病院フェスタ2010」を開催しました。もっと身近に病院

を身近に

今年、ゲストにプロサッカーチームのアルビレックス新潟チアリーダーズを迎え、ステージでのパフォーマンスや健康体操、AED体験などを実施しました。

3施設合同の「ゆいクロス」落成

沖縄県支部、沖縄赤十字病院、沖縄県赤十字血液センターの3施設が入る合同施設「ゆいクロス」の新築移転落成式が6月2日、大塚副社長、仲井眞弘多支部長(沖縄県知



「ゆいクロス」の名称は一般公募で決定

事)をはじめ、多くの方々の参列のもと行われました。

新施設の名称「ゆいクロス」は相互扶助を実践する沖縄の「ゆいまーる精神」といのちを守る赤十字の「レッドクロス」を重ね合わせたもの。沖縄と世界を結びつける施設になって欲しいという願いが込められています。

空から陸から 災害訓練

全国初! 阪 大 DERU空輸訓練

災害時の被災者救護のために日本赤十字社が支部などに配備しているdERU(移動式仮設診療所)のコンテナを空輸する全国初の訓練が6月2日、自衛隊の協力により行

われた。

訓練場所となったのは、兵庫県の陸上自衛隊青野ヶ原演習場。災害時、車両が進んで



空輸に使われた大型輸送ヘリコプターは3トンもあるコンテナを吊り上げ、安全に空輸できることを確認。コンテナ内の資材への影響も検証され、無事が確認されました。

奉仕団員が DERU訓練 神奈川

神奈川支部は5月22日、救護赤十字奉仕団、同無線救急赤十字奉仕団、同山岳赤十字奉仕団から推薦された団員34人を対象に、dERUの設置訓練を横浜市立みなと赤十字病院で実施しました。

災害時の徒歩 帰宅を訓練 東京

東京都支部は6月12日、都庁都民広場と井の頭公園の2カ所をスタート地点とする災



最後の頼りは自分の足です

害時徒歩帰宅訓練を実施。会社で地震にあったときのことを考えて、などの目的を持つ。計217人の参加者が、徒歩で自宅を目指しました。

帰宅路の途中に設けられた各地の赤十字エイドステーションでは、地域奉仕団や青少年赤十字(JRC)加盟校の生徒が、炊き出しなどで参加者を応援。JRC加盟校の都立柏江高校の生徒は、「エイドステーションの存在を今回はじめて知りました」と積極的に訓練に参加していました。

ドリンク飲んで社会貢献!

募金型自販機を設置

赤十字活動を支援する募金型自動販売機が5月28日、四国コカ・コーラボリテック(株)の協力により、四国で初めての徳島赤十字乳児院へ設置されました。

この自販機で飲料を購入すると売上金の一部が徳島県支部活動資金として自動的に寄付されるもので、まさに地域の「募金箱」です。災害時には自販機の飲料が無償で提供される機能も備えています。



募金型自販機の設置を県内各地に広げる予定です

同社の安藤尊伸・徳島支店長と同支部の三木章男事務局長が算書に調印した後、テープカットを行いました。

はじめました「里親支援」

富山県支部受託富山県立乳児院(津幡真一院長)はこのほど、赤十字施設として初めて

「里親支援」です。今後乳児院では、里親になる人を掘り起こし、養育技術を高めるための研修を企画

ととなる里親支援機関事務局を県から受託しました。社会的養護を必要とする子どもを家庭に引き取り、家族として生活する里親。この里親による養育がスムーズにくよう援助していくための

県立美術館とコラボで赤十字美術展

千葉県支部では赤十字150年と新社屋落成を記念して、「日本赤十字社美術展」を千葉県立美術館で開催しま



ポートクイン千葉の佐藤美恵子さんが、東郷青児氏作「ナース像」のモチーフとなった救護服を着て登場

した。期間中7300人を超える来館者が鑑賞し、「これらの作品を守り、次世代の若者た

心からの寄付に感謝

ハイチへ救援金100万円

日本ボウリング評議会の武部会長(左)と中山副会長(中央)



武部会長(左)と中山副会長(中央)

ちに赤十字の優しさやポリシを伝えてほしい」などの感想が出されました。

同振興会では平成2年から献血チャリティー・コンサートを開催。寄付金は献血運搬車の購入・整備資金に充てられます。



日赤大塚副社長に贈呈目録を手渡す須藤社長(左)

5月11日岡路子・ソニー音楽芸術振興会常務理事(右)に社長感謝状を授与

今年もコンサート収益金を寄付

(助)ソニー音楽芸術振興会

「参加できてうれしかったのはもちろんですが、なによりチャリティーに貢献できて誇りしかったです」

「赤十字と聞いて思い出したのは、亡くなった母のこと。ボランティア活動に積極的な人でした。そんな母から、いろいろな援助団体があるが、募金するなら赤十字。赤十字なら安心」と言われ続けてきたことを思い出したのである。そんな安心感と、僕の希望もあり、喜んで引き受けました」

「日本は弱い立場の人に対しての意識がとも強く、言われなくても相手のことを思いやることができます。そんな意識を持った一人ひとりが、手をとり輪になればより大きな活動ができるはず。その手を取り合うきっかけの一つが赤十字という存在なのではないでしょうか。僕も今後はブログなどを通して、そうしたメッセージを発信していきたいと考えています」



ミュージシャン 小松 拓也さん

「中国のオーディションに参加しようかと考えたのは29歳。目を浴び、中国で一躍有名になりました。そのとき、赤十字から記念コンサートの出演依頼が舞い込みました」



5月8日、世界赤十字デーを記念して上海万博会場で行われた「中日韓赤十字記念コンサート」。日本代表の歌手の一人として出演したのが小松拓也さんです。

人生の葛藤の時期で、ダメだった引退も考えていました。それでも、参加を決めたのは、いつも今の自分を越えていきたい」という思いがあったから。前に進むことをやめてはいけないと思ったのです」

今の自分を越える気持ちを忘れない

「中国のオーディションに参加しようかと考えたのは29歳。目を浴び、中国で一躍有名になりました。そのとき、赤十字から記念コンサートの出演依頼が舞い込みました」

Voice&プレゼント

◆災害時の情報通信に役立ちたい
——滝口豊さん(徳島市)
アマチュア無線奉仕団員です。山間部の多い徳島県ですから、災害で孤立集落などが発生したときの情報通信に役立てればと思っています。

◆「LOVE in Action」で初献血
——大河原恭子さん(米沢市)
「LOVE in Action」のラジオで心がとても温かくなり、5月23日に人生初の献血をしました。どなたか一人でも助ける事のプラスになりますように祈っています。

プレゼント応募方法

「赤十字新聞」や赤十字活動へのご意見や感想などを下記までお寄せください。毎月抽選で素敵な赤十字グッズをプレゼントします。



今月号のプレゼント
赤十字オリジナル
マグカップを3名様に
郵送/〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3
日本赤十字社企画広報室 赤十字新聞係
FAX/03-3437-7091
メール/koho@jrc.or.jp

ご投稿の際は、お名前、連絡先(住所・電話番号)を明記してください。匿名希望の際はその旨もご記入ください。当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

6月号の懸賞クイズの答え
問題①92 20
問題②奉仕団

石膏ボードメーカーの吉野石膏株式会社からこのほど、2000万円の事業資金が寄せられました。

創業110周年の記念に社会貢献活動として行われたも。須藤永一郎取締役社長は

創業110周年に2000万円

吉野石膏株式会社

少年剣士が募金呼びかけ大

日田市総合体育館で5月16日に開催された第40回近県少年剣道大会及び第18回近県選抜少年剣道個人練成大会で三芳少年剣士会の呼びかけによ

7・8月の行事予定

開催日	行事名	開催場所	問い合わせ先・備考	開催日	行事名	開催場所	問い合わせ先・備考
7/23(金) 7/24(土)	マツダオールスターゲーム2010(赤十字イベント)	福岡・新潟	☎03-3437-7071	7/31(日) 8/1(月)	夏休み親子の防災セミナー	大阪赤十字会館	日赤大阪府支部 ☎06-6943-0708 対象:小学4~6年生と保護者
7/29-30 8/2-3・5 6・9-10	第15回献血おもしろゼミナール	大阪府赤十字血液センター	7/7から下記番号にて受付 ☎06-6962-7003	7/31(日)	赤十字こどもの安全教室(水上・幼児安全法)	愛知県・海南こどもの国 愛知県・愛知こどもの国	☎052-971-1591

インタビュー INTERVIEW

フィリピン台風復興支援

被災者に勇気与える赤十字の支援チーム



現地駐在員
松永 一さん



のです。水洗トイレ付き仮設住宅の建設は、フィリピンでのIFRC事業としては初めての試みで、その意義の説明や使い方の指導なども行いました。

「フィリピンの人は『困ったときはお互いさま』という意識や、助け合いの精神が強いので、被災者はお互いに教えあひながら家を建てています」

国際色豊かな支援チーム

支援チームはアジア、アフリカ、ヨーロッパの6カ国の駐在員で構成されています。欧米のNGO（非政府組織）なども復興支援にあたっていますが、これほど国際色が豊かなチームは赤十字ならではの。

「私たち赤十字の存在が、世界中から応援にきてくれている。世界中がフィリピンのことを気にしてくれている。被災者の皆さんを勇気づけているんです」と松永さんは語ります。



被災者の状況を調査して回る松永さん

台風被害の後に世界中で大規模災害が多発したことも重なり、必要とする復興資金が集まらない現状があります。

今年も台風シーズン目の前に、住宅再建が急がれます。

フィリピンには毎年、平均20個ほどの台風が上陸しますが、昨年は「スーパータイフーン」と呼ばれる巨大台風が短期間にいくつも襲来し、とくに首都マニラがあるルソン島の全域が40年来といわれるほどの記録的豪雨と洪水被害に見舞われました。

「今回の台風の規模や被害は、台風慣れしているフィリピンの人も驚くほどだったそうです。私は被災から1カ月半たった11月半ばに現地入りしましたが、まだ水浸しになっているところやかけ崩れ、テント暮らしをしている人がたくさんいました」

IFRCの支援計画は、被災したうちの11万世帯を対象とした住宅支援、物資配布、保健支援、災害対策など。3つの州を担当する松永さんの仕事は、家屋が全壊した6500世帯の仮設住宅建設と、半壊した1万世帯に補修用の資材を提供することです。

全壊した家屋は川沿いなど危険な場所にあることが多く、安全な代替地を探すことから始まりますが、なかなか適当な場所が見つからないといっています。また、見



台風被害を受けた住宅

つけても地主との交渉がうまくはかどらないなど、住宅建設は困難を極めました。

助け合いの精神豊かに



赤十字の支援で建てられる家のモデル

住宅建設に必要な資材は赤十字が提供しますが、実際に家を建てるのも補修するのも、すべて住民の手で行うのが基本。「自分たちの力で作った方が大事にしてくれますし、コミュニティを継続するのにも役立ちます」と松永さんはその意味を強調します。

仮設住宅ではあっても、レンガやコンクリートで補強してもよく、新しい土地が今後半永久的な集落になる可能性もあります。自分たちの力で再建するという意識をもってもらうのがまず大切なのです。

モデルとなる住宅を大工さんが中心となって作り、それを住民に見せて作り方を覚えてもらいます。その後、大工さんは監督に回り、住民が困ったときや間違えたときに手を貸す



ハイチ大地震

西半球最貧国の首都を直撃し、死者22万人、被災者300万人以上の壊滅的な被害をもたらした今年1月12日のハイチ大地震。国際的な救護活動は前例がないほどの困難を極めました。地震発生から半年が経った今でも、給水や医療サービスの提供、物資配布などの緊急支援が必要とされています。同時に被災地では、復興への動きも始まっています。

ハイチのドクターとも連携

日赤は発災翌日に調査員を派遣し、1月25日には仮設診療所での救護活動を開始するなど、首都ポルトープランスや震源地に近いレオガンでの支援を展開してきました。

第2班でハイチ入りした国際救援課の菅井智課長は、「診療所では、現地のドクターに協力を依頼しました。通訳の必要をなくすることで患者への対応をスムーズにし、一人でも多くの患者を診るためです。同時にそれはハイチのドクターに日本の医療技術を学んでいた機会にもなりました」と成果を報告します。

ポルトープランスでは巡回診療も実施しました。診療所で患者を待ち受けるだけの医療では十分ではなかったからです。大通りに面するキャンプですでに他団体による診療が始まっていましたが、1本道を外れたような場所の被災者へのケアはほとんど手つかず。

「そうした被災者に医療を届けることを我々は心がけました」と菅井さんは語ります。



©IFRC/JOSE MANUEL JIMENEZ

ポルトープランスに設置した仮設診療所では6月15日まで診療が続いた(中央は小林薬剤師)

救援から復興支援へ 発災から半年の被災地は今

懸命の活動が共感を

被災者が暮らすキャンプでは衛生状態の悪化も深刻でした。「このままでは感染症のまん延が目に見えていました」。予防接種を担当した河合結子看護師はキャンプの様子をこう振り返ります。

ワクチン接種を必死に呼びかけましたが、公衆衛生の認識不足もあり、人々は消極的。「ところが、接種を受けた何人かが、赤十字の考えに共感し、接種呼びかけに加わってくれたのです。活動の喜びを教えられました」そうしたボランティアの協力もあり、赤十字全体で目標としていた15万人への接種を達成。感染症の広がりを防ぐことができました。

こうした緊急救援活動について菅井さんは、「仮設診療所を運営するだけではなく、

予防接種や衛生教育などを通じて、コミュニティ全体の保健衛生状態を守っていく取り組みが大切です」と強調します。

コミュニティとともに復興を目指す

震災から半年が経とうとする現在もなお、キャンプの状況は劣悪。清潔な水やトイレは不足し、雨が降ると地面がぬかるみ不衛生です。初期に配布したビニールシートは劣化し、穴があくなど被災者は依然厳しい状況にあります。

レオガンでは、緊急救援と並行して復興に向けた事業の準備も進めています。その最初の取り組みとして病気予防のための衛生環境整備で、水の供給やトイレの設置などとともに、保健衛生教育を行っていきます。

本事業を担当する高崎さんは、「ハイチの人々だけで問題に対処できる力をつけてもらうことが大事です。現状は十分とは言えませんが、彼らは力があり、希望を失ってはいません。そのコミュニティにもっと積極的にかかわっていき、赤十字の強みであるボランティアのネットワークを活かし、共に事業を進めていきたいと思っています」と展望を語っています。



©IFRC/JOSE MANUEL JIMENEZ

土地をきれいにして環境改善に努める赤十字ボランティア